

クローズド・キャプション・システム対応の 洋画ビデオソフトを活用した英語授業

小林 敏彦

本稿では、近年語学教育で活用され始めているクローズド・キャプション・システム対応の洋画ビデオソフトを活用した外国語としての英語授業の教授法の一案を紹介する。教材選定の上でも洋画を使用した授業活動は、若い世代の学習者の興味を惹き付け、英語学習そのものへの関心をおおいに高めてくれる。このシステムに対応したソフトの増加と一般家庭への普及と共に、多機能を備えた字幕を提示するデコーダーも市販させるようになった。従来のような英語字幕を画面の一定の箇所に提示するだけでなく、日本語字幕付きのビデオソフトでこのシステム対応のものを再生することで、字幕なし、日本語字幕のみ、英語字幕のみ、日英の字幕の並記という四つの提示パターンができるようになり、教室内でのリスニング活動のみならず学習者個人が行う独習の仕方にも多様な学習が可能になった。難解だと思われる生の素材である洋画の英語を最終的には字幕なしで理解する聴解力と語彙力を向上させる手法としてこのシステムの活用は今後おおいに期待できるものである。

1: INTRODUCTION

我が国におけるインターネット・パソコン通信を始めとする近年の情報通信網の発達が目覚ましく、一般家庭や企業、教育現場への普及も大きく進んできている。世界のニュースの8割は英語で伝えられていると言われている。インターネットで入手可能な情報量を加えると、その比率はもっと高くなるだろう。情報通信網の発達と普及のおかげで、日本にいながらにしてテレビの衛星放送で世界のニュースを見ることが可能になった。BBC, CNN, ABCなど世界の主要英語ニュースに簡単に接することができる。またインターネット(web sites)には世界各国の新聞や雑誌の紙面が無料で提供されている。今や世界各地のニュースに瞬時にアクセス可能な時代になり英語習得には申し分ない環境であるが、この恩恵を国内の英語学習者は十分に生かしているだろうか。また、英語教育においてもCALLやビデオ教材などの研究が進んでいるにも係らず、現場では一部の教育者しかこの利を活用していないのではないか。

情報の選択

情報が豊富にあるがゆえにその選択が困難になっているという面がある。英語学習に役立つような情報の氾濫が、「良質な素材」を何の基準で、どう選ぶかが教育者及び学習者側に大きな障害となり負担にさえなっているのが現実である。

良質であるということは、高度で難解な英語のことではない。学習の手段として良質な素材とは、まず第一に、学習者の現時点での英語力にふさわしいレベルであること。第二に、学習者の英語能力・技能の習得を促進させるような言語的特徴と内容を有したものであるということ。この学習者に適切と思われる言語材料を集め提示したものが「教材」であり、語彙が慎重に選択され、また制限されながら文法の提示順まで厳密に定め、学習者の知的発育まで考慮にいれながら国の監視下で作成されたのが、中学・高校の英語の検定教科書(screened textbooks)である。大学レベルでは、このような制限は少なく、教材の選択はおおかた教官の判断に一任されている

のが現状¹⁾である。

検定教科書のみならず一般に市販されている英語学習テキストだけで英語を学習している学習者は、温室で栽培されている植物と何ら変わらない。スクスクと育ってもたくましさに欠け、学習者のレベルなど全く考慮していない生の英語に立ち向かう体力が育ちにくい。同様に教室で学習者のレベルに合わせた話し方をするネイティブスピーカーの英語だけ聞き続けていてもナチュラルスピードのニュース英語や洋画を聞いて理解できるようにはなれない。この点、Richards (1987) は以下のように生の素材の重要性を強調している。

While much authentic discourse may be too disfluent or difficult to understand without contextual support, materials should aim for relative authenticity if they are to prepare listeners for real listening. (p. 172)

生の英語を理解できるようになるには、生の素材 (realia) 自体に根気よく接し続けなければならないことは明らかである。

生の素材

生の英語 (authentic English) とは、英語母語話者に向かって発信された英語のことだが、対話の場合は、非母語話者に対して多くの母語話者はやさしい語彙を選び、ゆっくりと、はっきりと話してくれるという特徴がある。これは、フォーレナートーク (foreigner talk) と呼ばれる意識的、または無意識的な話し方の調整である。対話では、聞き手の話し手へのフィードバックにより話し方を変えることがあるが、テレビやラジオのニュースのようなメディア英語は独話 (monologue) のため、聞き手の事情に関係なく一方的に情報が伝達されてしまう。このため、リスニング教材として教室で使用する場合は、再生を繰り返したり速度を遅くするなどの調整が必要である。ただメディア英語はあくまでも独話であって、英語学習の目的が独話の聞き取りに限定される場合は別として、一般的に日本語を母語とする学習者は、独話のみならず対話も聞き取れなければならない。

教授法上の対話文の使用の重要性について、Gower and Walters (1983) は以下のように述べている。

They are important because although language can be broken down into isolated items (words and structures) or be seen to operate according to at least one system (i.e. the grammatical) we have to teach students how it is used. Parroting items in isolation is not enough! When students hear dialogues they can hear some of the ways native speakers communicate with each other and take the first steps in learning to participate. (p. 121)

ここでいう対話とは、前述の聞き手から話し手へのフィードバック (feedback) のある生の対話のことではなく、教材としてオーディオテープやビデオテープに吹き込まれた提示可能な第三

1) 大学英語教育学会関西支部教材開発研究会編(1998)「大学一般教育英語教材に関する JACET 会員対象アンケート調査報告書」によると、「教材選択は担当の先生に一任されていますか」という問いに、「はい」と答えたのが136名(84%)、「いいえ」と答えたのが9名(6%)、「どちらとも言えない」と答えたのが16名(10%)であった。

者同士の対話のことである。もちろん生身の人間を相手にしたインタラクション(interaction)が英語の習得には不可欠であるが、大教室の授業では物理的制限が伴い、また学習者の独習も困難になる。そこでフィードバックなき対話の提示、すなわちインタラクションの現場を再現したオーディオテープやビデオテープに依存することになる。

洋画による英語習得

第三者のインタラクションを提示する形態には、教材用に製作されたストーリー、スキット、演劇、テレビドラマ、映画などがある。中でも米国映画を中心とした英語の映画（以下「洋画」と記す）は、外国語としての英語（EFL）の教育を受ける者にはもっとも身近な学習言語媒体のひとつである。海外に出かけることなく、また英語圏に長年暮らしていても経験することがほとんどない希有な場面を疑似体験することが可能である。この類似体験について、特撮映画の大御所ジョージ・ルーカス監督は読売新聞によるインタビューの中で次のように語っている。

もともと小説やテレビドラマ、映画などの作品は、ドキュメンタリーであれ、フィクションであれ、ある人生、ある体験を類似的に経験しているのと同じだ。それはリアルな体験ではないが、主人公などに感情移入することによって、その物語世界に入り込める、感情的な意味ではリアルな世界だ。(1999:1)

教材選定の上でも洋画を使用した授業活動は、若い世代の学習者の興味を惹き付け、英語学習そのものへの関心をおおいに高めてくれるものである。

日本語を母国語とする英語学習者の中には、洋画を題材に学習し大きな成果をあげた先人も多く、一般書の中で語られる彼らの個人的な体験は多くの英語学習者に感銘とやる気を与えてくれる。それはビデオデッキや洋画のソフトが普及している現代では想像し難い英語学習者の映画館の活用法である。例えば、以下にある体験談は参考になる。

「映画館へはテープレコーダー持参で」(種田, 1969)

「英会話の勉強のために同じ映画を十回以上も見た」(渡部, 1980)

「懐中電灯を持って映画館で英会話を勉強しました」(松本, 1980)

以上の三氏以外にも同様の超人的努力で困難な学習環境を克服し第一線で活躍されている方は多いが、実証研究などの学術論文の関心のほとんどはクラスルームリサーチに限定されており、学習者の独習について研究したものは少ない。EFLの環境においては、授業での目標言語との接触時間は限られており、けっして第二言語習得(SLA)の必要なインプット量を満たすものではない。このため、英語のカリキュラムは、教室外での学習者の学習言語インプットを考慮にいれた作成が必要であり、授業でのコンタクト時間だけで単純に単位数について論じても実用的な英語力の育成は達成できるものではない。リスニングについては、後出の学習ストラテジーを教室内でしっかり伝授する必要があるが、それをもとに学習者個人がそのストラテジーを教室外での学習言語のリスニング活動に活用しなければ何の意味もない。このためには、課題として本学の言語センター内で一定の時間指定された教材を聴くことを単位取得の諸条件のひとつに組み入れることが考えられる。これは米国の外国人用の補習英語プログラムでは早くから常識化しているシステムである。

最近、映画館離れが進んでいると言われている。平成10年に読売新聞社が行った全国世論調

査²⁾によると、映画を見る方法で何が最も多いかの問いに、51%が一般のテレビ番組で、19%がレンタルや購入したビデオで、映画館はわずか9%であった。映画の醍醐味はやはり映画館でなくてはならないと思っている映画ファンの中にも上映時間や入館料金などのために、いつでも低価格で見られるビデオで見る者が増えている。このことは、いかにビデオが一般家庭に普及し生活の一部になっている事実を示すものであり、英語教育の視点から言うと、この身近な媒体を活用した英語学習法を紹介することで、学習者の日常生活の中に英語学習を浸透させることが可能になるのではないだろうか。

2：リスニング活動の指導

大学での英語購読の授業では、使用テキストに付属テープが市販されている場合が多く、本学言語センターでも付属テープを活用しながら授業の予習や復習をしている学生をよく見かける。こうした付属テープについて効果的な利用法を理解しないで資源を無駄にしている学生も多いのではないだろうか。私のもとにも、テープの活用の仕方に関する質問が、語彙の増やし方や英字新聞の読み方に関する質問と同じくらい多く寄せられる。そこで私はリスニングの仕方をまとめたシート（付録1）を作成し、学生に配布することになっている。関心のある教官はぜひ参考にさせていただきたい。

リスニング活動において、教材の提示法は、大きく三つに分けられる。ひとつは、教官が肉声で学習言語を発声する方法である。これは独話などには適するが、対話の場合は複数の朗読者が教室の中になければならない。第二の提示法は、オーディオテープに吹き込んだものを再生して聴かせる方法である。伝統的で手軽に実施できる利点もあるが、音声のみの情報伝達には質的・量的制限があるという指摘もあり、第三の提示法としてあげられるビデオテープの活用がさかんに指摘されてきている。(Lonergan, 1984; Visscher, 1990; 高井, 1991, 1993, 1996; 岡野, 1994) 特に高井(1993)の大学生を被験者として行った実証研究では、オーディオ教材よりもビデオ教材の方が学習者の聴解力を高めることが確認されている。

ビデオテープの使用には、音声のみの情報伝達の方式や音声を消した画像のみの提示なども教授法も考えられる。すなわちビデオテープの最大の利点は、教授目的に応じて教材の提示法を変えることができることであり、教授法の可能性を格段と広げてくれている点である。

3：字幕付きビデオの提示

ビデオテープを授業の中で使用する際に、近年注目を浴びてきているのが字幕の活用法である。大学英語教育の中でも字幕提示の効用について研究が進められている。平成10年9月に岡山県就実女子大学で行われた大学英語教育学会(JACET)年次大会での東洋英和女学院大学の吉野志保氏と恵泉女学園短期大学の狩野紀子氏の研究発表はたいへん興味深かった。

「字幕の提示タイミングが英語聴解に与える影響」という題のこの発表では、字幕を音声の2秒

2) 読売新聞全国世論調査

調査日=平成10年12月12, 13日・対象者=全国の有権者3,000人(250地点, 層化二段無作為抽出法)・実施方法=個別訪問面接法・有効回収数=1,968人(回収率65.5%)・回答者内訳=男47%, 女53%▽20歳代15%, 30歳代16%, 40歳代21%, 50歳代19%, 60歳代18%, 70歳以上11%▽大都市(東京区都と政令市)20%, 中都市(人口10万人以上の市)38%, 小都市(人口10万人未満の市)19%, 町村23%

前、同時、2秒後の三通りの提示を行い、大学生の内容理解度を英単語再生率と意味再生率をはかるテストを行い比較した実証研究であったが、実際の音声から2秒後の字幕提示の再生率に統計的有意差が認められ英語学習者の理解をもっとも促進することが報告された。たいへん興味深いのが、使用された映像は米国のテレビ番組であり、クローズド・キャプション・システム対応のビデオソフトではなかった。内容理解を促進させる手段としてこのような形態で字幕を活用するには、同発表者が実験で使用した字幕を画面にマニュアルで打ち込むキャプションエンコーダー(caption encorder)が必要であり、膨大な時間とエネルギーを要する。



同発表では、今後の課題として、1) 字幕の音声化について検証する、2) 字幕と音声をずらして提示した場合の視覚移動を調べる、3) 音声に字幕を付加する際、音声とのずれをどの程度にすればよいか実用的方法を明らかにする、4) 視聴回数やテスト方法をかえて検証する、の四つをあげた。この字幕の提示に関する報告の意義は、これから多くの研究者がクラスルームリサーチを重ねて検証して行かなければならないだろう。

4: クローズド・キャプション対応ビデオソフト

近年聴覚障害者のために字幕を提示したテレビ番組やニュースが目立つようになってきた。日本でも衛星放送で見られる米国のニュース番組“The News Hour”は、深夜の放送枠では全て英語字幕が提示され、授業でも活用できるものである。ただし、日本語の場合と違い、つづりが横長のため字幕の入れ替わりが激しく目が疲労しやすい。

市販またはレンタルされている洋画ソフトにも字幕提示化の波は押し寄せている。ただし、顧客が自由に選択できるように、一般のビデオプレーヤーで再生しても米国で販売されているビデオには字幕は一切提示されず専用の機材であるクローズド・キャプション・デコーダー(closed caption decoder)を接続することで提示可能になる。このシステムの語学教育への活用については、日本でも数年前から紹介されている。(塩澤他, 1993)

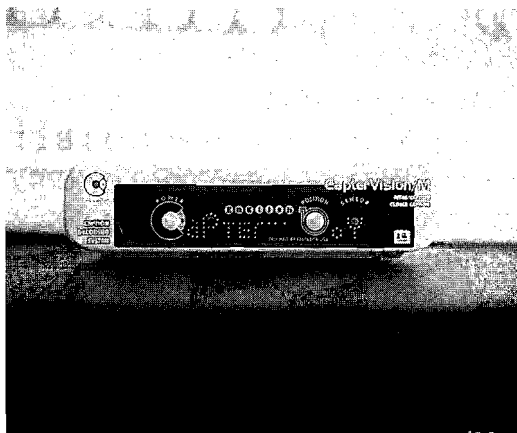
ただし、洋画ソフトのクローズド・キャプション化は数年前に始まったばかりであり、名画などの古いソフトには対応していないものがほとんどである。このクローズド・キャプション対応ソフトの生産は、米国のThe National Captioning Institute, Inc.が中心に進めている。製作会社では、Warner Home Videoの近年のほとんどのソフトがクローズド・キャプション対応になっているが、市販ソフト全体では対応ソフトのシェアは50%以下である。

5：クローズド・キャプション・デコーダー

クローズド・キャプション・デコーダーは、テレビモニターとビデオデッキとの間に配線し接続される装置である。キャプションデコーダーは、平成10年より各社が低価格化を進め、機能を充実させた。サイズもビデオデッキと一体化した大型のものから手の平サイズまで多様な形態がある。

米国で市販またはレンタルされている対応ソフトには、英語の字幕が選択提示されるが、日本で市販またはレンタルされている対応ソフトには日本語字幕がついているものがほとんどであるため、装置の機能の活用により教材としての可能性を広げている。かつては一定箇所しか字幕が提示できなかったが、最新の装置の中には、上下数カ所で提示することができる製品も現れ、英語字幕を日本語字幕の上部に設定すれば日英の二か国語を同時提示させたり、日本語字幕の上にブラインドすれば英語字幕のみを提示させることができるようになった。ただし、字幕に頼ることなく音声のみで理解させるような場合には、少々作業が必要である。私はこの日本語字幕を消去させるために、教室の暗幕の裾の部分を上向き（結局背後の白壁に写ってしまい失敗した）、卓上の小型モニターに写せるLL教室では、学生にモニターの下部分をノート等で覆い隠させるなどの工夫をしたが、ある日ビデオデッキからソフトを取り出してもデコーダーのスイッチを切らない限り、ブラインドがモニターに残っていることに気が付き、セリフのない部分を再生し、英語字幕のない完全なブラインドを保持させたまま一端英語または日本語のみで提示したソフトをダビングしたものをマスターに入れ、別テープにダビングする方法を思いついた。これにより、画面の下4分の1ほどが隠されるが、日本では手に入れにくい字幕の一切ないソフトに近いものを用意できる。このように、字幕の活用の仕方に多様性が生まれ、教室や独習での効率のいいリスニング活動ができるようになった。

大学の施設の中でも、本学のMH1やMH2のようにクローズド・キャプション装置を備えている施設は珍しい。特にMH2は画面も大きく迫力と臨場感が醸し出され、手元の字も見えるので最適である。暗幕を張り、部屋の照明を落とせば本物の映画館のような雰囲気が出せる。



市販のデコーダーシステム



MH1・2に設置されているデコーダーシステム

6：クローズド・キャプションを活用した授業案

6-1：Pre-viewing activities

洋画ビデオをリスニング活動に活用する場合は、単に鑑賞させるのではなく、タスク (task) を課す。タスクの選択にはさまざまな方法が考えられるが、使用する洋画ビデオテープによって指定された語句を聞き取る方法と、特定の情報を聞き取る“focused listening”の二種類の方法がある。

まず準備としては、表1と表2のようなシートを用意する。シートの上部には洋画の製作に関する基本的な情報を載せてあり、これは全て洋画関連のウェブサイトから入手可能である。

第一の指定した語句の聞き取りは、市販のビデオソフトがクローズド・キャプション・システムに対応している場合に行う。これには、その場面で使用されている日常生活の中でよく使用される語句や洋画で頻出する語句を列記したハンドアウトを配布する。これらの語句の選択は、日常生活上頻度が高く、学習者も積極的に使うべき言語項目を選ぶ。それらの語句の使い方に5分ほどの時間を費やす。あとで演習の時間を用意しているので、この段階では簡潔に済ませる。日本語訳を学生に書かせてもいい。ただ解説するだけでは洋画を見ているうちにその表現のことを忘れてしまう危惧がある。書かせることでその場で覚えさせ、画面とシート間の目線の往復を最小限にとどめさせることができる。

第二の特定情報の聞き取りは、クローズド・キャプション・システムに対応していないビデオソフトを使用する場合である。特定の品詞や文法項目をあらかじめ指定し、その場面の中で聞き取れたらメモするように指示する。グループや座席に応じて異なる項目を指定することもできる。対応していないソフトの場合は、後に続く英文字幕の確認作業が不可能なので工夫が必要である。確かに準備の段階で教師が聞き取ってシートを準備したり、シナリオを手に入れる必要があるが、クローズド・キャプション・システム対応ではない作品のシナリオで市販されているものは少ない。

表 1 : キャプション対応ソフト用

INCREASE YOUR ENGLISH VOCABULARY THROUGH MOVIES # 1

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 199 _____

Title : The Fugitive (逃亡者) (1993, U.S.)

Genre : Action/Thriller/Drama

Directed by : Andrew Davis

Cast : Harrison Ford/Tommy Lee Jones

User Rating: 7.9/10 (7052 votes)

Tagline : A murdered wife. A one-armed man. An obsessed detective. The chase begins.

1: KEY EXPRESSIONS

words/phrases/sentences	Japanese
[] 1) Let's go.**	_____
[] 2) Make yourself comfortable.	_____
[] 3) I'm starving.	_____
[] 4) Just wait.	_____
[] 5) Oh, my god.	_____
[] 6) Hang in there.*	_____
[] 7) Give me a hand.**	_____
[] 8) Be good.**	_____
[] 9) mess**	_____
[] 10) in charge*	_____
[] 11) I'd like to*	_____
[] 12) with all due respect**	_____
[] 13) hate to**	_____
[] 14) Wait a minute.**	_____
[] 15) Listen up.	_____
[] 16) Very funny.	_____
[] 17) fugitive	_____

2: USEFUL EXPRESSIONS

表 2 : キャプション対応でないソフト用

INCREASE YOUR ENGLISH VOCABULARY THROUGH MOVIES # 2

Name: _____ (ID _____) Day & Date: _____, _____, 199 _____

Title : LEON (1994, U.S.)

Genre : Crime/Action/Drama/Romance/Thriller

Directed by : Luc Besson

Cast : Jean Reno/Gary Oldman/Natalie Portman/Danny Aiello/Peter Appel

User Rating: 8.4/10 (4183 votes)

Tagline : Professional assassin Leon reluctantly takes care of 12-year-old Mathilda, a neighbor whose parents are killed, and teaches her his trade.

USEFUL EXPRESSIONS: words/phrases/sentences

[] 1) _____	26) _____
[] 2) _____	27) _____
[] 3) _____	28) _____
[] 4) _____	29) _____
[] 5) _____	30) _____
[] 6) _____	31) _____
[] 7) _____	32) _____
[] 8) _____	33) _____
[] 9) _____	34) _____
[] 10) _____	35) _____
[] 11) _____	36) _____
[] 12) _____	37) _____
[] 13) _____	38) _____
[] 14) _____	39) _____
[] 15) _____	40) _____
[] 16) _____	41) _____
[] 17) _____	42) _____
[] 18) _____	43) _____
[] 19) _____	44) _____
[] 20) _____	45) _____
[] 21) _____	46) _____
[] 22) _____	47) _____
[] 23) _____	48) _____
[] 24) _____	49) _____
[] 25) _____	50) _____

Do you like this movie? strongly disagree <- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 -> strongly agree

Your comments: _____

6-2 : Main-viewing activities

一講 90 分という時間制限の中では洋画の全編を見せることはできないので、10 分ぐらいのセリフの十分あるシーンを三度見せる。

10 分という長さは、画像と音声に集中できる限界であるという研究があるからであり、また授業進行の点からも、大学の講義時間（90 分）の中で視点を変えて数度見せるにはこの程度の長さが妥当である。

また盛り上がりのシーンを選び出すにも、考慮すべき点がいくつかある。まずは、学生の興味のあるシーンを選出しなければならない。それは 18~22 歳前後の世代の学習者が面白いと思うシーンであり、この世代との共感性 (empathy) が求められる。また、その部分に十分セリフが含まれていなければならない。右写真にあるようにいくら盛り上がって目の話せないシーン (“Mission: Impossible” の中での Tom Cruise が CIA の本部から極秘情報を盗み出すシーン) でもセリフがほとんどないのでは困る。十分にセリフがあって、また爆音などの雑音のない音声的にも聞きやすい部分、また聞きやすいセリフの多い部分を選ぶ必要がある。当然俗語や卑語などが含まれていない部分であるのが望ましいし、また教室で見せるのにふさわしい内容の場面でなければならない。



6-2-1 : The 1st Viewing

まず第一回目はブラインドで字幕を隠したテープを使用する。受講者は、シートに載っている語句が聞き取れたら順番に印を付けていく。また、他に画像を見せずに音声だけ流して全神経を音声にのみ集中させる方法もあり、何度か試してみたことがあるが画像がある時より聞き取りはかなり困難になった。聞き取り作業が終了したら、ペアワークで聞き取れた語句をお互いに確認させるようにしたい。このことで学生は真剣に聞き取りを行うようになるからである。



6-2-2 : The 2nd Viewing

二回目の聞き取りは日本語字幕のみを提示する。実はこの日本語字幕提示の状態こそ日本にいる英語学習者が最も接する洋画の画面形態である。映画館でも市販やレンタルのビデオでも、日本で見られる洋画のほとんどには日本語の字幕が付いているので、むしろ日本語字幕を積極的に活用しながらリスニングを高める方法も示す必要がある。この聞き取りの場合は、日本語の字幕

を素早く読み取り、聞こえてくる英語を予想したり、また聞こえた英語を確認しながら指示語句の聞き取りを行うように指示する。また第一回目の時と同様に、終了時にはペアで確認させるようにしたい。また時間があれば、日本語字幕の英訳作業をさせることもできる。短い部分を英訳させた後、その部分を何度も再生させ、各自比較し英文を修正するように指示する。この英訳作業させる部分を授業の準備の段階で決めておくことが望ましいが、段階の授業中に選ぶことも多い。



6-2-3 : The 3rd Viewing

第三回目の聞き取りの時は、英語の字幕のみを提示する。この場合、音声だけではなく視覚からも指定語句が確認できるので見落としのない限りすべて確認できるはずである。ゆえに、三回目の聞き取りでは一、二回目の作業の答え合わせのつもりで聴くように指示するとよい。ただし、作品によっては英語字幕の変化がたいへん早く見落としやすいものがあるので、引き続き行われる post-viewing activities の中で再度確認するようにしたい。



6-3 : Post-viewing activities

前段階では、指定語句を聞き取るという受信技能を高める活動であった。今度は、それらの語句を発信技能に高めるためのタスクを行う。まずこの 10 分間に出てきた語句について、時間の許す限り詳細な解説することから始める。

この最終段階では日本語と英語の字幕を並記して提示する。これによって日英表現の対象比較が可能になる。ところどころビデオを一時停止しては、日本語字幕が意識を超えた「文脈訳」がされているかを示す。また日本語字幕の批評を行うのも面白い。更に関連語句を板書して紹介するなど、派生した活動ができる。

語句の解説が終了したら、特定の重要語句をいくつか選定して、ダイアログ形式のタスクを行う。これには、あらかじめその語句を使用しているダイアログを記載したハンドアウトを準備し、前後にラインを加えてダイアログ自体を学生に作らせる方法が考えられる。



7 : PEDAGOGICAL IMPLICATIONS

7-1 : 洋画を中心にした授業のシラバス

これまで述べてきたクローズド・キャプション・デコーダーの利点を生かして作成した授業案を紹介したい。平成 11 年より本学の英語 I と英語 II にて洋画を全面的に活用した英語の授業を予定しているが、ここまでの説明と主張をもとに表 2 にあるシラバスを作成した。

この授業では、洋画はあくまでも学習者の言語能力を高める教材であって、鑑賞が目的ではない。学生の興味をそそるような題材の選定はあくまでも学習モチベーション、特に統合的モチベーション (integrative motivation) を高めるためである。また洋画では背景知識の説明に時間を費やせば、異文化の理解などの教養を高めるのに役立つが、あくまでも副次的なものであり、授業の目的は、あくまでも英語力そのものの向上である。

表 2

1. 授業の目的 (objective)・内容 (content)・方法 (method)			
英語の映画を鑑賞しながら口語英語の語彙的、統語的、語用的特徴を学ぶ。毎回 1 本の映画の名場面で使用される語彙の聞き取りと発信のための演習を行う。以下の授業活動を行う：			
1) ポップス歌詞聞き取り演習 (15 分間)			
2) 語彙項目の説明 (5 分間)			
3) 1 回目聞き取り (10 分間)			
4) 2 回目聞き取り (10 分間)			
5) オリジナルと字幕の比較 (20 分間)			
6) 対話文を使用した発信のための語彙演習 (30 分間)			
2. 授業の進行 (class procedures)			
1 E.T.	10 The Fugitive	19 JFK	28 Armageddon
2 Star Wars	11 U.S. Marshals	20 Last Emperor	29 Volcano
3 Independence Day	12 Eraser	21 Braveheart	30 Twister
4 Air Force One	13 Die Hard 3	22 Ghost	
5 Executive Decision	14 007: Tomorrow Never Dies	23 Leon	
6 Under Siege 2	15 Mission: Impossible	24 Beauty & Beast	
7 Top Gun	16 Terminator 2	25 Bean	
8 G.I. Jane	17 Batman & Robin	26 Home Alone	
9 Courage Under Fire	18 Rocky 4	27 Babe	
3. テキスト (textbook) : ネイティヴが話す [英単語、イディオム、決まり文句] (語研)			
4. 成績評価の方法 (evaluation)			
出席、授業参加、定期試験で総合的に評価する。			
5. 注意点 (notes)			
授業には積極的に参加すること。受け身の態度は許しません。また配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。			

7-1-1：授業の目的・内容・方法

授業の目的は、生の英語素材を提供してくれる洋画を鑑賞することで、英語のリスニング力を養い、同時に口語表現を増やすことだが、登場人物間の会話のやりとりを観察することで語用の知識も養いたい。

母語は、技能別に listening, speaking, reading writing の順で習得される。これは感覚器官でいえば、耳、口、目、手の順である。このうち耳と手は他人から習うことなく無意識のうちに習得されるが、目と手の部分については、教師が必要である。この習得の順序は、第二言語習得でも見い出せ、特に移民の子供（思春期前の児童）の自然な第二言語習得（naturalistic SLA）で観察できる。しかし、日本のような EFL の学習環境で、しかも日本語母語話者から文法訳読法（GTM）で習った学習者の学習言語習得は、おおかた目、手、耳、口の順である。この不自然な習得順の原因は、やはり不自然な教材の提示順であり、教育する側の責任である。言語はやはり音から接するべきであり、音声をもとに文字が成立した歴然たる事実から目を背けるべきではない。

このために、私の授業では毎回の授業の中で、この耳口目手オーダーを厳守している。この耳、すなわちリスニング活動の第一形態が、洋楽の歌詞の聞き取りである。洋楽を教室内のリスニング活動として使用するにあたり、その特徴と効用についての詳細は平成 10 年に私が担当した中学高校教師のための文部省主催第 1 ブロック英語教育者講座（コミュニケーション）で配布したシート（付録 2）を参照にしていきたい。

この活動は過去数年間私の授業で取り入れているが、学生にはたいへん好評である。聞きやすく、またスタンダードとなっている曲を選び、付録 3 にあるような歌詞聞き取りシートを作成し配布する。毎回一曲聞いて、書き取りまたは語の選択を行い、クラス全員で歌う。通年の授業では 30 曲ほど聞くことになるので、学生は国際交流の場でカラオケなどで歌を披露できるようになる。しかしこれはあくまでも副次的な効果であり、英語の曲の歌詞の聞き取り作業の最大の教育的効果は、授業参加のレディネス（readiness）を整えることと英語のリダクションなどの音の変化に慣れることである。音声的にはカタカナ英語から脱却し、音の連結な強弱を学ぶことができる。

7-1-2：授業の進行

このシラバスは合計 30 講義の通年クラス向けのものである。ひとつの洋画を通年で部分に割って扱う方法もあるが、学生が飽きる危惧があるので毎回違う洋画を見せることにする。シラバスには 30 タイトルの洋画が羅列されているが、それぞれのジャンルから近年の映画を三つずつ選んでいる。1～3 は SF、4～6 はテロリズム、7～9 は軍事、10～12 は連邦保安官、13～15 は刑事・スパイ、16～18 はヒーロー、19～21 は歴史的人物、22～24 はロマンス、25～27 はコメディ、28～30 は災害を扱った洋画である。007, Last Emperor, Bean 以外はほとんどがセリフは米語である。また Beauty & Beast 以外は全部実写洋画である。

1 から順に洋画を見せていくが、この配列には意味がある。この 30 の洋画には観客を惹き付ける盛り上がりのシーンがあり、アクション系のものが多い。ジャンル別の配置により、まずは大画面から臨場感が伝わりやすい SF を見せることで、授業初日に強烈な印象を与える。しかも児童向けの子供のセリフの多い聞きやすい E.T. を使うことで映画に対する抵抗や落胆を回避する。またロマンスはクリスマスシーズンに来るようにする。またこれらの洋画の中で、Air Force One,

Top Gun, G.I. Jane, Terminator 2, Rocky 4, Last Emperor, Ghost, Leon, Beauty & Beast, Bean, Home Alone 以外は全てクローズド・キャプション・システム対応のビデオソフトに収められている。

7-1-3：教科書

教科書は市販の米語表現集を使用する。これは米会話で多用されているのに、日本の学校ではあまり強調されていない、また全く教えられていない語句を集めたものである。(付録4に一部を紹介) 俗語や卑語等は省かれており、日本語を母国語とする英語学習者が使っても無難な発信用の語句がダイアログと共に紹介されている。これらの表現の多くが洋画の中でも頻出の項目であり、キャプション対応の作品を扱った日には、この本に掲載されている語句項目の中で10分間の長さで出てくる表現の中の中で重要なものを二、三選出する。これを post-viewing activities の中で、ダイアログと共に受信技能と発信技能を高めるタスクの中で焦点をあてる。

受信能力 (productive skills) については、教科書のダイアログの一部を空欄にしたり、全文をディクテーションさせることが考えられる。これには付属テープを聴かせる方法とペアワークをさせてコミュニケーションギャップを用いた空欄穴埋め作業 (fill-in-the blanks) が可能である。ダイアログ形式になっているためこの形態は取りやすい。ただしコミュニケーションギャップを使用したシートを準備し配布する必要がある。解答は学生がテキストを開いて確認するようにする。

また発信技能 (receptive skills) については、各受講生にその語句項目を用いたダイアログを作文させる方法が考えられる。これを何人かに板書させ、コメントするとよい。

7-1-4：成績の評価

成績の評価 (grading) は一定の学習期間の達成度をはかるものであると同時に教室外での学習を継続させる動機づけの役割も果たしている。ゆえに、大学で一般化している定期試験よりもこまめな小テスト (quiz) を毎回の授業で課すことが考えられる。しかしながら、この洋画を使用した授業においては、リスニングや語彙力のような言語能力を画一的に鍛えるだけではなく、異文化理解と娯楽的要素を組み込むことによって学生の英語学習に対する統合的動機づけを高めることも期待されている。ビデオ授業における試験の悪影響については、岡野 (1994) が数年にわたるシャーロック・ホームズのビデオを使用した授業の経験から以下のように述べている。

探偵小説を読み、ビデオ・ドラマを楽しむことを学ぶことにより、読解の学力を増進しようとする試みとしては、ゆとりのある授業と学習の態度が必要であると思われた。テストで追い込むのでは、いたずらに緊張感を生じ、教師も学生もゆとりを失うであろう。また、学生の動機付けと学習意欲に悪影響を与える恐れもある。このような趣旨により、テストは期末試験のみとした。(p. 147)

この授業では、一貫してシャーロック・ホームズを題材にしており、またセリフが書かれたテキストを併用しており、リスニングとリーディングという二つの技能の向上を目的としたものであった。私の授業計画でもリラックスした雰囲気洋画の面白さを満喫させ、教室外での英語学習を促進させるために、学生個人の好みになるべく合うようにあらゆるジャンルの洋画を用意している。ゆえに、学習意欲を害する好意を極力排除するためにも小テストは行わず、前期・後期

試験だけを予定している。

試験の内容については、授業中に扱った言語材料の学習状況のみを評価する達成テスト (achievement test) を課すべきであるが、画一的な達成テストは単なる記憶力を計るものになってしまう危惧がある。言語教育の目的のひとつに、言語的創造性 (linguistic creativity) を伸長させることがあげられる。これは授業活動だけでは不十分であり、学習者個人の教室外での積極的なインターアクションが必要である。そのような機会がない場合は、授業の徹底した復習や課題の遂行が不可欠である。また授業中に教室外での学習を奨励するために学習ストラテジーを提示すべきであり、これをタスクを通じた教室内活動の中に組み入れることも可能である。それによって授業中の指示に従って努力すれば達成可能な技能等を評価することも理にかなった方法と言える。これは、習熟度テスト (proficiency test) との折衷的な要素を持った「習熟度達成テスト (pro-achievement test)」と呼ばれるものである。

習熟度達成テストが円滑に行われるには、毎回の授業出席 (attendance) 及び積極的な授業参加 (participation) が学習者に求められる。学習ストラテジーは、実際に活動に参加して体得するものであり、物理的な授業への参加が大前提となるため出席は厳格に記録されるべきである。また、ただ出席していても意味がないことを承知させるために、授業への参加態度、平常点も細かく与える評価システムが必要である。遅刻 (tardy) についても、リスニング活動中心の授業では他の学生に迷惑がかかるので厳しい対処が求められる。

そこで、定期試験では、達成テストの部分と習熟度テストの二つの部分からなる試験を行う。達成テストの部分は語彙テストとディクテーションテスト (dictation test) に分けられる。語彙テストは、毎回配布するシートの中から主要なものをいくつか選び英訳及び和訳のような試験が可能である。ディクテーションはテキストで扱った項目のダイアログの全文書き取りを行う。この時十分ポーズをおいて三回付属テープを聴かせる。また達成テストの部分には、毎回の授業の中で行っているダイアログの自由作文を取り入れるが、この採点の基準については今後の課題として熟考したい。

REFERENCES

- 大学英語教育学会関西支部教材開発研究会編(1998).「大学一般教育英語教材に関する JACET 会員対象アンケート調査報告書」
- Gower, R. and S. Walters. (1983). *Teaching Practice Handbook: A reference book for EFL teachers in training*. Oxford: Heinemann International.
- 小林敏彦 (1996).「ネイティブが話す [英単語・イディオム・決まり文句]」東京：語研
- Lonergan, J. (1984). *Video in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lucas, G. (1999).「2000 年代を読む 9 : 技術超える映画の感動」1 月 13 日水曜日読売新聞朝刊第 1 面
- 岡野哲 (1994).「英語と英語教育：経験論的研究と実践」東京：近代文芸社
- Richards, J. (1987). Listening comprehension: approach, design, procedures. In M. Long and J. Richards (Eds.), *Methodology in TESOL: A Book of Readings*. New York: Newbury House, 161-176.
- 塩澤利雄, 伊部哲, 大西光興, 園城寺信一 (1993).「新英語科教育の展開」東京：英潮社
- Takai, O. (1991). A comparative study of the effectiveness between audio medium and video medium in Teaching English. 小樽商科大学人文論集第 82 号
- Takai, O. (1993). Are movies really effective for Japanese students to improve their listening comprehension ability? 小樽商科大学人文論集第 86 号

- Takai, O. (1996). Teaching learning strategies by using video. 小樽商科大学人文論集第 92 号
- 種田輝豊 (1969). 「20 か国語ペラペラ」東京：実業之日本社
- 読売新聞「止まらぬ映画館離れ」1998 年 12 月 25 日（金曜日）朝刊 12 版 6
- Visscher, J. (1990). Mixed-up Media: The Use and Abuse of Video in Language Teaching. *The Language Teacher XIV*, 11, 5-9
- 渡部昇一, 松本道弘 (1980). 「英語の学び方」東京：実業之日本社

付録 1

◆テープ、CD の効果的な活用方◆

1) Listening & Reading (本文に目を通しながら英語を聴く)

テープ/CD を聴きながら例文に目を通す方法です。数度聴いてから本を開く方法と、例文をひととおり黙読した上で聴く方法とがあります。必要に応じて例文を確認しますが、和訳は伏せておくほうがよいでしょう。聴きながら意味を確認するにようしますが、頭の中で完璧な和訳をしようとするのではなく、だいたいの意味がくみ取れる程度(70パーセント程度)でかまいません。完璧な和訳をしなくて、英語の語順で理解するように、目は常に左から右へ移動させるように徹底させます。このため次から次へと先に進んでいく音声に合わせて読んでいくことがよい練習になるのです。語順の克服と、瞬時でだいたいの意味を把握させる手法として、テープ/CD を使用した読解演習は有用です。

2) Listening & Reading Aloud (英語を聴いた後で、音読)

例文に目を通し、テープ/CD に続いて繰り返し発音してみる方法です。例文をひと通り読み終えたうえで、正確な発音やイントネーションを学ぶために有効な方法です。これには、テープ/CD を1文ずつ止めて繰り返し方法と、もっと長い適当な長さのところで止めて繰り返し方法があります。

3) Listening & Repeating (英語を聴いた後で、繰り返す)

例文を見ずにテープ/CD の後に続いて繰り返し発音してみる方法です。例文をひと通り読み終えてから行う方法と、いきなり耳から入ってから後で文字を確認する方法があります。英語の実力のある方(実用英検2級以上)はぜひ後者の方法を試してみてください。これにも、テープ/CD を1文ずつ止めて繰り返し方法と、もっと長い適当な長さのところで止めて繰り返し方法があります。実力に合わせて調整してください。

4) Listening & Dictation (英語を聴いた後で、書き取る)

例文を見ずに英文を聴き、適当な長さのところでテープ/CD を止め、聴き取った部分を書き取る方法です。これは聞き取れない部分を何度も聴き、根気よく続けることが大切です。二、三回聴いてもわからないからと言って例文を見るのではなく、最低10回は聴いてから確認するようにしてください。

5) Shadowing (英語を聴き、同時に繰り返す)

例文が聞えた直後、またはほぼ同時に声を出し繰り返す方法です。慣れないうちは、声を出さずに口を動かすだけでもかまいません。またヘッドフォンを使用すれば自分の声じゃまにならなくなりますが、訓練が進むにつれてヘッドフォンなしでもできるようになります。これは3の場合と同様に、例文見ながら行っても、その前に行っても、どちらでも構いません。項目ごとに繰り返す方法と例文をを全部見ながら、再生のままにして数十分続けることもできます。これは同時通訳者の養成法として世界中で行われている方法で、リスニング力を高め、英文がチャンク(かたまり)として記憶に定着し、発音やイントネーションが正確かつ滑らかになる方法として一般の語学学習者もぜひ活用すべき訓練法です。神経言語学(neurolinguistics)の研究からもこの訓練の効用は説明可能で、この訓練を重ねていけば、実際の対話で相手の発話に対して即答することが容易になります。

6) Focused Listening (特定の情報をくみ取る)

特定の情報に焦点を合わせて聴き取る方法です。例えば、「動詞」「形容詞」などの品詞、「数字」「大きさを表わす語句」などの意味、種類に応じて聴き取る焦点をまず決め、それから該当する語句を書き出します。これには、文章全体(2~3分ぐらいの長さ)を一度聴いて、これを1ラウンドとします。1ラウンド聴く度に特定情報を変えたり、必要に応じて同じ特定情報を聴き取るために数ラウンド聴きます。

7) Overlearning (過剰学習: テープを再生のままにして聞き流す)

以上の段階を経たら、今度は過剰学習のために部屋の中で再生させたままにしたり、通勤・通学の時に、テープにダビングして小型プレーヤーで聞き続けることをお勧めします。これは一度理解した英文の語彙、構文、英語の発音、イントネーションを無意識に定着されるのが狙いです。このため意識的に聴く必要はありません。BGMのように音楽のように聞けばいいのです。この方法は、特にイントネーションの習得に効果があります。

付録 2

LISTENING TO MUSIC

1 : Selection of songs

- The song should be easy to understand.
- The song should not be too fast.
- The song should contain little slang and few vulgar expressions.
- The song should contain expressions appropriate as teaching material.
- The song should have the proper length for a class.

2 : Making blanks and choices

- Decide the number of blanks and choices according to the level of students.
- Make a blank for a repeated word or phrase.
- Make a blank or a choice at proper intervals.
- The choices should consist of one of a minimal pair, synonym, homonym, related word, similarly-sounded word, etc.

3 : Playing the Tape

- Change the rate of speed of the music according to the level of the class.
- Play the music twice or three times if necessary.
- You can stop the tape occasionally whenever necessary.
- You can change the volume of speaker if necessary.

4 : Giving Answers

- You can simply give all the answers at once.
- You can stop the tape occasionally to give answers.
- You can ask some students to answer.
- You can let students record the song so that they can play and stop the tape in their own way.

5 : Explaining about Vocabulary Items, Grammar & Phonology

- You can translate all lyrics and/or give an explanation about important expressions.
- You can ask your students about something related to expressions in the lyrics.
- You should refer to articulation, stress, intonation and reduction.

6 : Singing Together

- The whole class can stand and sing the song altogether.
- The teacher should sing aloud and walk around the class.

7 : FEEDBACK

- In a year, your students will have a large repertoire of the English songs that they can sing and will appreciate your teaching.
- The students will feel that English is closer to their lives and will become motivated to learn it harder.

付録 3

授業日：平成__年__月__曜日

MY HEART WILL GO ON

(Love Theme from "TITANIC")

by Celine Dion

Every night in my (1: d_____) I see you. I (2: f_____) you.

That is (3: how / why / what) I know you go on

Far across the (4: distance / distances) and (5: space / spaces) between us.

You have come to (6: s____) you go on

Near, far, (7: w_____) you are.

I (8: believe / leave / live) that the heart does go on

Once more, you open the (9: d____)

And you're (10: here / healed / hill) in my heart and

My heart will go on and on.

Love can (11: t_____) us one time and last for a lifetime

And never let go till we're (12: goal / go one / gone).

Love was (13: when / where / what) I loved you

One (14: true / truth) time I hold to.

In my life we'll (15: a_____) go on

Near, far, (7: w_____) you are.

I (8: believe / leave / live) that the heart does go on

Once more, you open the (9: d____)

And you're (10: here / healed / hill) in my heart and

My heart will go on and on.

You're here, there's nothing I (16: fear / feel / find).

And I (17: know / no / now) that my heart will go on

We'll stay (18: f_____) this way.

You are (19: safe / safer / saved) in my heart and

My heart will go on and on.

付録4

「ネイティブが話す [英単語・イディオム・決まり文句]」(語研)からの抜粋

Ⅱ 決まり文句で決めてみよう

Ⅱ 176 Sentences

What's going on?

どうなっているのですか。 *状況判断がつかないときに用いる。

U.S.A. ***
U.K. ***
TOEFL ***
TOEIC ***
STEP2 **

 休館日

- A: **What's going on?** There is no one in the library.
B: It's closed today.
A: いったいどうなっているの。図書館にだれもいないなんて。
B: きょうは休館日ですよ。

More Expressions

- What's happening? (何が起きているんだ)
 What happened? (何があったんだ)

What's the problem?

どうしましたか。

U.S.A. ***
U.K. ***
TOEFL ***
TOEIC ***
STEP2 **

 相談

- A: I want to talk to you about something.
B: **What's the problem?**
A: お話したいことがあるのですが。
B: どうしたの?


More Expressions

- Is there anything I can do for you? (私にできることはないですか)
 I'll see what I can do. (何ができるか考えてみましょう)

What's the matter?

どうしましたか。

U.S.A. ***
U.K. ***
TOEFL ***
TOEIC ***
STEP2 ***

 態度の急変

- A: **What's the matter?** You agreed to this plan.
B: I've changed my mind.
A: どうしたの。この計画に賛成したじゃないか。
B: 気が変わったのです。


More Expressions

- What's the matter with you? (どうしたのですか)
 What's your problem? (どうしたのですか)
 What went wrong? (どうしたのですか)

What's up?

何かあった? *「元気?」という意味で親しい間だけで使われる。

U.S.A. ***
U.K. ***
TOEFL ***
TOEIC ***
STEP2 ***

 出会いV3

- A: **What's up?**
B: Nothing much.
A: 何かあった?
B: 別に。

More Expressions

- What's new? (何かあった?)
 How are you doing? (調子はどう)
 What are you doing lately? (最近どうしていますか)